

学 年	6年	時 間	理科「大地のつくりと変化」 「地層のでき方」	時 期	11～12月（啓林館） 10月（東京書籍）	時 数	2時間（90分） 第2・3時／
本時目標		<ul style="list-style-type: none"> 地層のでき方を考え、水のはたらきでできた地層の特徴が分かる。 日本の河川の特徴を理解し、過去の水害から安全な避難方法について考えることができる。 					
資料・準備		スライド資料1、映像機器、1mの透明な管と下から水が漏れないように工夫（班の数）、ストップウォッチ、ペットボトル（班の数）、礫・砂・泥、ワークシート①・②・③					

展開

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆)
導 入	1 前時の地層、縞模様の地層の学習を思い出す。	○化石が見つかる場所の様子等について、思い出させる。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>地層はどのようにしてできるのだろう。</p> </div>	
	<p>2 地層はどのようにしてできるか調べる。</p> <p>◇川の流れの働きによってどのように地層ができるかをスライド資料1を見て学習しましょう。</p> <p>◇自分の予想と同じでしたか。違っていましたか。</p> <p>◇礫や砂、泥はどのように積み重なるか実験してみましょう。まず実験（2）を先にして置いておきましょう。次ぎに、実験（1）のようにして調べてみましょう。計測した結果は、実験まとめワークシート①に記録しましょう。</p> <p>◇各班の実験結果を黒板の表に書き入れましょう。この結果から、どんなことが分かりますか。</p> <p>◇水のはたらきでできた地層には、どのような特徴があるでしょう。地層まとめワークシート②にまとめてみましょう。</p>	<p>○前時の学習と関連させ、地層のでき方を予想させてからスライドや実験を行う。</p> <p>○スライド資料1を見せて、各自予想と比較させる。</p> <p>○実験(2)→ペットボトルに水を入れ、その中に、礫・砂・泥の3種類を入れてよく混ぜ、置いておき、堆積してからその様子を観察させる。</p> <p>○実験(1)→透明な管に水を入れ、礫・砂・泥をそれぞれ水の中に入れ、底に落ちるまでの時間を計測し、それぞれの積み重なる順や、層に分かれて積み重なる様子を観察させる。</p> <p>☆積み重なる順や、層に分かれて積み重なっていることに気づくことができる。（観察・記録）</p> <p>○水の力で流された礫、砂、泥は、どのように湖や海まで運ばれ、堆積していくのか考えさせる。</p> <p>・特徴：角がとれて丸みを帯びている 速い流れの川から湖、海に運ばれることにより堆積する</p> <p>☆地層のでき方が分かったか。（記録）</p>
ま と め	<p>3 日本の河川には、どのような特徴があるか5年時の学習を思い出し、水害から安全に避難するためにはどのようにすればいいのか考える。</p> <p>◇5年時に学習した日本の河川の特徴と、水害からの安全な避難について考えて、各自、防災まとめシート③に記入し、ペアで話しあってみましょう。発表してください。</p>	<p>○日本の気候、河川の特徴から、日本の河川は短時間のうちに増水し、氾濫を起こしやすいことに気づかせる。（5年時の学習を思い出させる）</p> <p>○日本の水害の特徴を理解することで、どのような行動をとればいいのか、ペアで話し合いを行い、発表させる。</p> <p>☆日本の河川の特徴と安全な避難行動について分かったか。（記録、話し合い、発表）</p>
	<p>4 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <p>◇地層のでき方、水害からの安全な避難行動について、感想を発表してください。</p>	○本時の学習についてふりかえりをし、感想を発表させる。

関連する 教科・領域等	
協力団体	鳥取大学